



進学先大学

都留文科大学 文学部（現教養学部）国際教育学科

【現職】 K. International School Tokyo 日本語教員

## 駒走 聡俊 / Sohshun Komahashiri

座右の銘

知識や経験は誰にも奪われない財産だ

### 出身校

加藤学園暁秀中学校・高等学校

### IB経験

MYP/DP

### 略歴

加藤学園暁秀中学校・高等学校にてMYP・DPを修了。学校推薦型選抜（IB）により、都留文科大学文学部（現教養学部）国際教育学科に進学し、国際教育学を専攻。在学中に博報堂教育財団 教職育成奨学金の第4期生に採用される。その後、筑波大学大学院に進学し、教育学の修士号を取得。

### 進学先の大学・学部・専攻を選んだ理由

文系学部として日本で初めてIB教員養成コースを設けた都留文科大学で学ぶことが、IB教員になりたいという夢を実現する最も確実な道だと考えたからです。また、日本の教員免許とIBの教員認定証（IBEC）を同時に取得できる点にも大きな魅力を感じました。

### 志望校合格に向けてどのように努力したか

都留文科大学の国際教育学科が求める学生像を徹底的に研究しました。具体的には、大学が公式に定めるアドミッション・ポリシーを繰り返し読み込み、その上で「自分は大学が求める学生像である」と納得していただけるように、志望理由書では自分の経験を大学の求める人物像に沿う形で示しました。

### 大学で学んでいたこと

大学在学中は、国内のIB認定校において積極的に実習をさせてもらい、IB生に対する指導法やメンタルケアなど、IB教員を目指す上で必要不可欠な知識やスキルを学びました。また、大学2年次にはスウェーデンのウプサラ大学に交換留学し、現地のIB認定校での教育実習の一環として、生徒に日本文学を解説しました。帰国後は、実践だけでなく学術的な側面からもIBにアプローチしたいと考え、第5回日本国際バカロレア教育学会で、大学受験時から問題意識を抱いていたDP修了者に対する大学側の入学要件や授業方法に関する研究の発表を行いました。都留文科大学ではIBについて「実践面」と「学術面」の両方から学べるため、IB教員を目指す人にとっては最高の環境だと思います。

### IBで学んだスキルが大学の学びで生かされた場面

IBで学んだスキルの内、大学の学びで最も生かされたものは「能動的に学び、行動する力」です。自ら問いを立てて調べ、考えを深める姿勢をIBで培ったことが、大学での研究や授業への主体的な参加に繋がりました。さらに、この「能動性」は学業以外の場面でも大いに役立ちました。部活・サークル活動やアルバイト、インターンシップ、さらには留学といった大学生活の多様な機会は、「自らが動く」という意識が無ければ何も始まりません。IBで培った「能動的に学び、行動する力」があったからこそ、幅広い活動に挑戦でき、学問だけでなく人間関係や社会経験においても成長することができました。

### 大学生活で最も発揮していた「IBの学習者像」とは？

「信念をもつ人」  
理由：大学時代に自ら決めたことを「責任をもって最後までやり抜いた」からこそ、長年の夢を叶えることができたと考えているからです。

### 今描いている今後のキャリア

現在、インターナショナルスクールで日本語や日本文学を教えています。今後は、教科指導に留まらず、進路指導にも積極的に関わり、生徒一人ひとりが自身の価値観や将来像と向き合い、納得感のある選択ができるよう支援していきたいです。